

地域密着型金融の取組み状況

〈平成 25 年度の取組み状況〉

1 顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮

(1) 創業・新規事業支援

当金庫の融資や岩手県信用保証協会の制度融資と、「もりおか起業ファンド」の資金もあわせて、創業・新規事業融資に積極的に取り組んでいます。

(2) 経営改善・事業再生支援

平成 25 年度は、重点支援対象先として 30 先を選定し、経営状況や経営課題などの情報を営業店と本部間で共有して債務者区分のランクアップの推進やランクダウンの防止に努めたほか、岩手県中小企業再生支援協議会や岩手産業復興機構等の外部専門機関と連携して、経営改善計画書の策定支援や事業再生のアドバイスを行うなど、より実効性の高い事業再生支援に取り組んだ結果、4 先について債務者区分のランクアップが図られました。

また、東日本大震災で被害を受けた企業をサポートする目的で、当金庫が申請支援を行った中小企業等グループによる施設・設備復旧整備補助事業（グループ補助金）の岩手県第 5 次後半において 1 グループが認定を受け、平成 25 年度は 10 社が補助金を受領しました。

(3) 中小企業の経営改善のための取組み状況

当金庫は、地域金融機関の使命として、中小企業の事業活動の円滑な遂行と個人のお客さまの生活安定のために、金融円滑化にきめ細かく取り組んでいます。

① 中小企業の経営支援に関する取組み方針

- ・金融円滑化法期限到来後も条件変更等の支援態勢を保ち、他業態も含め、関係金融機関と十分連携を図りながら、貸付条件の変更等や円滑な資金供給に努め、金融円滑化に取り組んでまいります。
- ・デフレから脱却し、業況改善の動きを地域に確実に広げていくために、外部専門機関や専門家と連携して、各種公的支援策の活用を積極的に図り、課題解決型金融の実践に努めてまいります。
- ・認定支援機関として新規事業支援や事業再生支援のほか、創業補助金、小規模事業者活性化補助金、ものづくり補助金等の活用促進に

努めてまいります。

②中小企業の経営支援に関する態勢整備の状況

- お客さまから資金需要や貸付条件の変更等のお申し込みがあった場合には、これまでと同様に経営課題に応じた最適な解決策をお客様の立場に立って提案し、実行支援を行う態勢を整備しています。
- 中小企業の経営改善および事業再生に向けて、本部に企業支援室を設置し、岩手県中小企業再生支援協議会、建設企業等のための経営戦略アドバイザー事業、岩手県中小企業診断士協会、TKC東北会、地域の商工会議所等の外部専門機関や専門家と連携を強化して、お客さまの抱えている課題等に対応できる態勢を整備しています。
- 事業承継、M&A仲介業務の強化策として、信金キャピタル㈱や㈱日本M&Aセンターと連携し、支援を行う態勢を整備しています。
- 東日本大震災により被害を受けた中小企業の事業再生を支援するために、岩手県産業復興相談センターを通じ、東日本大震災事業者再生支援機構や岩手産業復興機構と連携して支援に取り組んでいます。
- 当金庫は、従前よりご融資の際にご提供いただく個人保証について、ご契約時に保証に関するご意思を慎重に確認させていただき、経営に關与しない第三者の方の保証を求めない、または経営者保証を免除するご融資などの対応に努めてまいりました。このたび、経営者保証に関するガイドライン研究会が公表した「経営者保証に関するガイドライン」を踏まえ、お客さまと保証契約を締結する場合、また、保証人のお客さまが本ガイドラインに則した保証債務の整理を申し出られた場合は、本ガイドラインに基づき誠実に対応するよう努めてまいります。

(4) 経営支援力の向上

お客様の事業再生支援や事業価値を見極める能力（目利き力）を向上し、コンサルティング機能を発揮させるため、中小企業基盤整備機構、岩手県中小企業再生支援協議会、信金中央金庫、TKC東北会等から講師を招いて継続的に研修を行っています。

(5) ビジネスマッチング・販売支援等

「ビジネスマッチ東北 2013」をはじめ、首都圏信用金庫が主催するビジネスフェア、物産展に多くの取引先企業が出展されました。今後もビジネスマッチングを通じて、地域の商品力、技術力の情報発信に努め、ビジネスチャンスに繋がるようお取引先企業の発展に貢献してまいります。

<東北地区>

- 「いわて食の大商談会 2013」（平成 25 年 8 月）岩手県及び当金庫他金融機関等主催
参加企業：10 社 来場者（バイヤーのみ）：218 社
- 「ビジネスマッチ東北 2013」（平成 25 年 11 月）東北地区信用金庫協会等主催

参加企業：34 企業・団体（ブース 31 企業・団体 HP3 企業）

名刺交換数：1,099 枚 商談件数：157 件 商談継続 89 件 成約 15 件 来場者：6,714 人

- 「ビジネスマッチ東北ハンズオン支援事業Ⅱ」東北地区信用金庫協会主催
(首都圏での販路開拓事業)・・国の補助金活用事業
大手企業OBで組織されている経営支援NPOクラブの人脈を介し、首都圏での販路開拓事業。当金庫採択企業：3 社
<首都圏>
- 「第 7 回東京発！物産・逸品見本市」（平成 25 年 5 月）西武信用金庫主催
参加企業：1 社 来場者：51,538 人（2 日間）
- 「第 4 回さわやか物産展」（平成 25 年 7 月）さわやか信用金庫主催
参加企業：2 社 来場者：5,400 人
- 「“よい仕事おこし”フェア」（平成 25 年 8 月）城南信用金庫主催
会場：東京国際フォーラム 参加企業：4 社 来場者：37,815 人（2 日間）
<販売支援>
カタログ販売や大手量販店の旗艦店舗で東北地域の商品を販売
- 「東北かけはしプロジェクト」 イトーヨーカ堂主催
- 「フルーツ加工食品販売支援」 成城石井主催
- 「旬彩カタログ しんきんのつなぐ力」信金中金主催

2 地域の面的再生への積極的な参画

(1) 地域活性化への取組み

①観光招致活動

東日本大震災により甚大な影響を受けた観光産業を支援するため、トップセールスにより、首都圏や関東・東海地区の信用金庫を訪問し団体旅行の招致に取り組んでいます。

平成 25 年度は 3 信用金庫 763 名のお客さまが来県され、平成 26 年度も多くのお客さまが来県される予定です。これまでに、計 17 信用金庫、延 5,441 名のお客さまがご来県されています。

なお、当金庫では、来県されたお客さまへ御礼と感謝の気持ちを込め、もりしん「さんさ踊り同好会」による「盛岡さんさ踊り」をご披露しています。

<ご来県いただいた主な旅行団の皆さま>

25年 5月 鹿沼相互信用金庫「信遊会」

10月 城北信用金庫「心を癒す大自然！十和田・八幡平3日間の旅」

青木信用金庫「あおしん旅行会」

なお、平成25年6月18日、花巻温泉、ホテル志戸平、ホテル紫苑、愛隣館、長栄館（※敬称略・順不同）を代表する5名の皆さまが当金庫を訪れ、本活動に対する「感謝状」並びに記念の「クリスタル盾」をいただきました。

②ファンドによる企業支援への取組み

平成24年8月に設立した「もりおか起業ファンド（もりおか起業投資事業有限責任組合）」は、平成25年6月に矢巾町、紫波町が新組合員として加入し、現在の出資総額は1億円。当ファンドは、経営関与を最重視したハンズオン投資で、ビジネスマッチやネットワークを通じた販路開拓等（盛岡信金）、インキュベーション施設の利用等（盛岡市、滝沢市）の支援により、起業時の資金確保や事業経営といった課題に対応しており、雇用の創出、地元経済・産業の活性化、また、震災で被災した沿岸地域から内陸部へ移る被災者の起業化や雇用機会の確保にも繋がる取組みを目指しています。

<ファンド構成組合員>

ファンド総額・・・1億円

無限責任組合員・・・(株)フューチャーベンチャーキャピタル

有限責任組合員・・・当金庫、盛岡市、滝沢市、矢巾町、紫波町

<審査・受付状況等>

現在、3社の投資審査を進めているほか、投資審査候補先として5社を検討しております。申込受付企業数は80社となっております。

<投資実績>

累計5社、投資金額19百万円

※本取組みにより、当金庫は第17回信用金庫社会貢献賞「地域活性化しんきん運動・優秀賞」を受賞しました。

③若手経営者・事業後継者の育成

県内産業を担う盛岡地区の若手経営者・事業後継者の人材育成のため「盛岡地域夢起業塾」を発足し、活動支援を行っています。

- ・講演会開催（開催日：平成25年7月3日）（35名参加）
- ・ビジネスステージ第6章（開催日：平成26年2月14日）（61名参加）

盛岡地域夢起業塾では、会員の人材育成のため講演会・交流会活動実施のほか、ボランティア部会が中心となり東日本大震災で甚大な被害を受けた田野畑村に平成23年6月より継続的に支援活動を行っています。

(2) 環境保全への取組み

①「八幡平松尾鉱山跡地」森林再生活動

当金庫は、平成 20 年より、荒廃裸地化した鉱山跡地を森林に戻そうと「八幡平松尾鉱山跡地」の森林再生活動に取り組んでいます。平成 25 年度は、9 月 21 日に本部職員 5 名が参加して、15 区画の植樹を行いました。

②「紫波企業の森」森林環境保全活動

森林整備を行うことにより、水源涵養などの森林の公益的機能の向上を目的として、平成 23 年 11 月、紫波町と「紫波企業の森づくり」活動の協定を締結しました。間伐により発生した木材は、木質チップとして再資源化することにより、地域資源の有効利用につながります。この活動は、平成 24 年から 15 年間にわたり実施し、紫波町における燃料供給態勢確立へ向けての支援事業の一環となります。

平成 25 年 6 月 15 日、第 2 回紫波企業の森づくり「もりしん共存同栄の森」の森林環境保全活動を実施。当日は、当金庫役職員とその家族 114 名、紫波町長様、地権者の皆様、NPO 法人紫波みらい研究所の皆様にご参加いただき、丸太・小枝の運搬作業や、伐採・枝打ち等の作業を体験しました。

③地産地消方式の「環境エネルギー普及事業」支援

当金庫では、温室効果ガス削減のための「省エネルギー・自然エネルギー活用の促進」と「地域での環境ビジネススキームの確立」に取り組んでいます。

具体的には、公共施設・事業所をはじめとして、エネルギー効率設計の提案を行い、ユーザー施設に設備投資を行うことで、再生可能な自然エネルギーの導入や省エネルギー化を促進します。これにより、温室効果ガスの削減と地域内に設備・メンテナンス等の新たな仕事と雇用を創造するとともに、エネルギー代として流出していた資金を地域内に留め、循環させる地産地消方式の「環境エネルギー普及事業」を支援しています。さらに、木質バイオマス系エネルギーを普及させることにより、森林整備の促進と地域資源の有効利用につなげ、一次産業の活性化も目指していきます。

本スキームにより、自然エネルギー設備を導入した紫波町の公共温泉施設では、チップボイラーの追加設備を行い、化石燃料の使用を 43%（現状）から 10%に削減を図り、将来的には、0%を目指しています。

なお、この取組みは、平成 23 年度の東北財務局「地域密着型金融の取組み」に対する顕彰と東北経済産業局「東北再生可能エネルギー利活用大賞」を受賞しました。

④節電対策への取組み

当金庫では、政府からの「電力供給対策（要請）」および「信用金庫の環境問題への取組みに関する指針」に基づき、平成 22 年度より電力使用量削減に取り組んだ結果、平成 25 年度は平成 22 年度比 17.41%使用量削減となり、平成 24 年度対比では 3.83%の削減となりました。昨年同様、使用最大電力の削減を目指し、クールビズ・ウォームビズの実施、室温設定（夏季 28℃、冬季 20℃）、照明・OA 機器等の節電に取り組んでいます。

(3) 地域貢献活動

①「学童軟式野球大会」開催

平成 25 年 8 月 24 日、25 日の二日間、第 6 回もりしんカップ「盛岡信用金庫学童軟式野球大会」を開催しました。

今回は第 6 回目を迎え、岩手県内のスポーツ少年団 16 チームが参加し、紫波運動公園野球場、桜町河川グラウンド野球場、紫波町立紫波第二中学校の 3 会場にてファイトあふれるプレーが繰り広げられ、一関地区代表の「中里スポーツ少年団」が初優勝を果たしました。

②文化事業の開催

もりしん創業 110 周年記念スペシャル「平成 25 年度夏巡業 大相撲盛岡場所」が、平成 25 年 8 月 3 日、盛岡市アイスアリーナで開催され、白鵬、日馬富士の両横綱ら力士の迫力ある取組が、2,600 人の観客を魅了いたしました。

地方巡業ならではの催し物である「子供の稽古」に出場する力士を当金庫が推薦し、24 名のちびっこ力士が稽古に参加しました。

ちびっこ力士は、(財)日本相撲協会より贈呈された記念の「まわし」を締めて土俵へ上がりました。

③「東北・夢の桜街道」運動と第 1 回盛岡信用金庫「桜の札所・絵画コンクール」

「東北・夢の桜街道」運動は、日本で最も愛されている“桜”を東北復興のシンボルに掲げ、「桜の札所・八十八ヶ所」として選定された東北 6 県の桜の名所を、東北復興への祈りを捧げながら巡る観光スキームです。

その一環として、平成 25 年春、子供たちに、地元の桜に触れる機会を提供することにより、自然を大切に作る心・郷土を愛する心を育み、そして、心豊かでたくましく成長することを願い、第 1 回盛岡信用金庫「桜の札所・絵画コンクール」を実施いたしました。

特別審査員として、画家の藤井勉氏にご参加いただき、厳正なる審査の結果、「盛岡信用金庫理事長賞」1 作品、「審査員特別賞」3 作品、計 4 作品の受賞作品が決定しました。

④「もりしんマネースクール」開催

地域を担う若い世代への金融知識の普及を目的として、地域の小・中学校を訪問して「もりしんマネースクール」を開催しています。

平成 25 年度は、小学校 4 校 11 クラス、387 名の生徒を対象に実施しました。

⑤「高齢者疑似体験講座」の開催

社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会のご協力を賜り、当金庫職員向け「高齢者疑似体験講座」を開催いたしました。

本講座は、当金庫職員が高齢者疑似体験装具を装着して、高齢者になったときの状態を疑似的に体感することにより、加齢による身体的・心理的な変化を理解することで、心配り・気遣いできる人材を育成し、今後の CS 活動に繋げていくことを目的としています。

⑥地域の祭り・イベントへの参加

毎年恒例の「盛岡さんさ踊り」、「二戸まつり」には、役職員が揃いの浴衣で参加しています。また、各地域の祭りやイベントなどへの参加やお手伝いをしています。

3 地域やお客さまに対する積極的な情報発信

(1) 地域やお客さまに当金庫の「地域密着型金融」の取組みに対するご理解を深めていただくために、ホームページやディスクロージャー誌等を活用しながら、積極的に情報発信しています。

(2) 「中小企業景況レポート」を作成・発行し、地域経済の情報を提供しています。

《経営改善支援の取組み実績》

【平成25年4月～平成26年3月】

(単位:先数)

(単位:%)

	期初 債務者数	うち 経営改善支 援取組み先数	αのうち期末 に債務者区分 がランクアッ プした先数	αのうち期末 に債務者区分 が変化しなか った先数	αのうち再生 計画を策定し ている全ての 先数	経営改善支 援取組み率	ランクアッ プ率	再生計画 策定率	
									A
正常先①	1,705	1		1	1	0.1%		100.0%	
要注意 先	うちその他要注意先②	205	19	2	16	18	9.3%	10.5%	94.7%
	うち要管理先③	2	1	0	1	1	50.0%	0.0%	100.0%
破綻懸念先④	40	8	2	5	8	20.0%	25.0%	100.0%	
実質破綻先⑤	38	1	0	1	0	2.6%	0.0%	0.0%	
破綻先⑥	11	0	0	0	0	0.0%	-	-	
小計 (②～⑥の計)	296	29	4	23	27	9.8%	13.8%	93.1%	
合計	2,001	30	4	24	28	1.5%	13.3%	93.3%	

- (注)・ 期初債務者数及び債務者区分は 25 年 4 月当初時点のものです。
 ・ 債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業（個人事業主を含む）であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含みません。
 ・ βには、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しています。
 なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者はαに含めるもののβに含みません。
 ・ 期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合はβに含めています。
 ・ 期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については（仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても）期初の債務者区分に従って整理しています。
 ・ 期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含みません。
 ・ γには、期末の債権者区分が期初と変化しなかった先数を記載しています。
 ・ 「再生計画を策定した先 δ」＝「岩手県中小企業再生支援協議会等の外部機関や専門家と連携した計画書および当金庫独自の計画書を策定した先」です。

